

あなたはどう感じ、  
考えるのか

Discussion

# 一人ひとりに問いかける「人間学」

2021年度に近代化120周年を迎えた大谷大学。開学時から受け継がれている独自の理念「人間学」は、仏教の教えに基礎を置き、「人間」をみつめ、考えることをテーマとして、第1学年全員が履修する科目です。仏教を通じて学びから学生たちは何を受けているのでしょうか。

## 積尊の生涯をたどり 人間の本質に迫る

**ダッシュョバラニ教授** 人間学は複数の教員が担当しています。積尊の生涯と教えに基づいて人間について考える、ということをベースにおいた授業です。全ての学生の必修科目なのですが、最初は「私の学科と関係ない」と思い、自分の勉強にどうつながるのかわからない人もいます。みなさんはどうでしたか。

**後藤信之介** 僕は実家の近くに東本願寺があって、小さい頃から身近に感じていたんですね。それなのに浄土真宗のことを深く知る機会はありませんでした。社会学部に入って、こんなふうに仏教にふれられるとは思っていなかったで、さまざまな仏教の教えを知ることができてうれしかったです。

**鷹橋日菜** 必修科目で、最初は義務のような感じで受けていましたが、**ものごとを落ち着いて考えられる機会**になりました。私が所属する国際学部では普段にぎやかな授業が多いので、新鮮でした。今の時代は、何かを考えるとスマートフォンを手放せないことが多いので、授業でちゃんと自分のことをみつめ直せるのは、とてもよかったです。

**藤井翔馬** 中学や高校では、人間ってどんな存在かということ学ぶ機会がほとんどありませんでしたが、**人間が存在している意味**を考えることができました。授業を受ける前は内容が理解できるか不安もありましたが、歴史的な出来事の説明もあってわかりやすく、楽しかったですね。

**朝日つきか** 昔からお釈迦さまとか釈尊の物語などに興味があって、手塚治虫のマンガも大好きでした。だから授業で釈尊について学べるのは楽しかったです。釈尊にかかわるいろいろな人のエピソードも出てきて、それを学んでいく中で、日々の過ごし方を考えるようになりました。



**後藤 信之介**  
社会学部 コミュニティデザイン学科  
第3学年  
山梨県・日本航空高等学校卒業

**ダッシュョバラニ**  
文学部 仏教学科 教授

**鷹橋 日菜**  
文学部 国際文化学科  
第3学年  
岐阜県・大垣東高等学校卒業

**藤井 翔馬**  
文学部 歴史学科  
第3学年  
京都府・北稜高等学校卒業

**朝日 つきか**  
教育学部 教育学科 幼児教育コース  
第3学年  
京都府・鴨沂高等学校卒業

## 生と死、差別、罪と救い 題材は身近なテーマ

**ダッシュ** 学科の勉強をする前に、**人間としての生き方について、まず考えてもらう科目**です。人間学を土台に置いて専門の勉強をすることで、大谷大学ならではの学びができます。皆さんの学びにつながるような内容が

あったのではないのでしょうか。

**朝日** 印象に残っているのは、キサーゴータミーという子どもを亡くした母親の話です。「子どもを生き返らせてほしい」という願いに対して、釈尊が「一人も死んだことない家から白いケシの実を探して」という。探すなかで、生きている人より死者の方が多く、「人間はいつかは死ぬ」と気づいて悟りを開く、という説話です。人の生死について考え

させられました。

**鷹橋** 私が関心をもったのは、日本と外国の文化の違いについてです。ネパールでは、結婚する前の女性が光の当たらない部屋にこもり、最後に太陽をみて結婚するのにふさわしい状態になる、という儀式があることを知りました。とても新鮮で、日本の当たり前が世界の当たり前ではないことを考えさせられました。

**藤井** 僕は、**積尊を自分たちと同じ一人の人間としてとらえ、その生涯をたどる内容**に興味深かったです。積尊がどんな経験をして、どうやって悟りを開いたのかを知ることで、人間の本質がどのようなものかを学べたと思います。

**後藤** 釈尊のお話にはいろいろなエピソードをもっている人が登場して、困難を抱えている人も多く出てきます。社会学部ではフィー

ルドワークで現地を訪れて、多様な人の生き方を見る機会が多いので、重要な授業だと思っています。異なる立場にある人のことを想像できるようになり、視野が広がりました。

## こころの動きはそれぞれ 人の数だけ考え方がある

**ダッシュ** 何を教えるかより、**学生がどう受け止めるか**を大切にしています。一人ひとり考えるポイントやこころの動きも違う。教員は、実際の出来事や積尊の思想についての情報は伝えますが、自分の経験や気持ちに照らし合わせるのは学生。答えはなく、考える機会を与える授業なのです。

**朝日** 人間学って、**人の数だけ考え方があることに気づかせてくれる科目**ですね。これまでは、価値観の違う人に「なんでわかってくれへんの？」って思ってたけれど、相手も同じように思うことを理解できました。自分と違う考えのおもしろさに気づき、もっと知りたいと思うようにもなりました。

**鷹橋** 日本でもこれだけ生き方が多様化しているの、**国境を超えるともっと文化も考え方も違う**ということをあらためて考えられました。人それぞれ、ということ念頭に外国の人ともコミュニケーションをとりたくし、人間学の授業で考えたことを生かして学んでいきたいです。

**藤井** 僕はこれまで、自分がだれかに支えられていることをあまり意識できていなかったんです。けれど、全ての現象は条件や原因が関係しあって成立しているという「縁起説」の授業を受けて、知らないところで多くの人に支えられていることに気づきました。

**後藤** **人間学の授業は、自分をみつめ直すきっかけ**になりました。釈尊のエピソードには、人の悩みや社会問題など、現代とのつながりがたくさんあります。大谷大学で学ぶ人々には、ぜひこの機会を大事にもらいたいです。

**ダッシュ** みなさんのお話、非常に勉強になります。私がこの授業を担当してから十数年くらい経ちますが、**最初はどうして「人間学」という名前をつけるのかなど不思議**に思っていました。けれど教えているうちに、その意味がわかってきました。人間学は、教員も学生も、人間としてともに学ぶ授業なのですね。